

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500086		
法人名	社会福祉法人守皓会		
事業所名	グループホーム愛宕苑	ユニット名: 第2ユニット	
所在地	和歌山県有田市港町29-1		
自己評価作成日	平成24年5月12日	評価結果市町村受理日	平成24年8月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの特色である少人数の共同生活を個人個人がゆったりとした時間の中で趣味や生きがいを尊重して、その人らしい生活をしていただけるように努めています。  
 食事は入所者と一緒に作り、職員と入所者がコミュニケーションを取りながら、楽しい雰囲気の中で一緒に食事を食べています。また毎週日曜日と入所者の誕生日には、グループホーム独自メニューで入所者が希望する食事を取り入れ、楽しんでいただいています。  
 入所者と職員が日常生活をおくる中で、心と体のバランスが取れるよう日々工夫し、第2の家族のような親密感を作り出すようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3091500086&amp;SCD=320&amp;PCD=30">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3091500086&amp;SCD=320&amp;PCD=30</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

有田川の河口に近い国道42号線沿いに位置している。紀州材を使った二階建てのグループホームで、入口には大きな木の格子戸があり、家庭的な雰囲気である。訪問看護ステーションが隣接し医療連携が取れている。同法人の特別養護老人ホームが近くにあり津波の時の避難場所となっている。入居者のその人らしい生活を援助するために、職員の行動指針を作り、また、ストレスチェック、リフレッシュ休暇などの制度を設けて職員の健康にも注意しており、職員の仕事に対するやりがいや達成感が得られている。また、地元の入居者が多く家族も立ち寄りやすく魚や野菜の差し入れもよくみられる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成24年6月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念として「人間性」「人の輪」「ノーマライゼーションの精神」を掲げている。また行動指針と新たに施設独自の目標として「みんなで一つの家族」「十人十色の笑顔作り」「地域との交流を大切に」を立て毎日職員間で唱和している。	法人の理念を基本にした事業所独自の行動指針は職員にとって受け入れやすく、指針の中の「一つの家族」「笑顔」をキーワードにして、暮らしの中で入居者の笑顔を引き出せるケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域に開かれたホームを目指し日常的に散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしている。また、定期的に行う消防訓練などに地域の方にも参加頂き、交流を深めている。	消防訓練の際には回覧で地域の人に呼び掛け参加が得られている。また、入居者が地域に自然な形で溶け込めるよう配慮して、入居者と買い物に出かけるとき、職員は制服から私服に着替えている。	今年度計画している小学校の運動会見学や夏祭りの開催が実現して、地域の人にグループホームをより知ってもらえることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の周辺症状等について、随時連絡、説明を行い、理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者、家族、職員が集まり、半年に1回運営推進会議を開催し、双方の意見を聞き今後のサービスに反映する。	地域住民、市の介護保険課課長、法人理事長や入居者・家族がメンバーとなっている。半年に一回開催し、グループホームの様子をスライドで説明し、前回の外部評価からの改善点も知らせている。	開催回数を増やし、多くの意見をまとめてサービスの質の向上に活用していくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	苑の入退所報告や地域包括支援センター、介護保険課との情報交換を行い、交流を深めている。また、空室情報も定期的に情報提供している。	定期的な入居者の状況の報告を含め密に連絡を取り合って協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進委員会を設置し、毎月開催している。ユニット玄関は常時開放しているが、建物の正面玄関は国道に近いこともあり、ロック解除をしないと開かない仕組みとなっている。特に夜間帯は施錠している。	身体拘束ゼロ推進委員会からのヒヤリハット事例を職員内で回覧し認識を深めている。家族から車椅子のY字帯使用の希望があったが、身体拘束をしないケアのための安全面に配慮した職員体制を説明して理解が得られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する外部研修に参加し伝達講習を行う。また外部も含め虐待について問題が発生した時は早急に勉強会を開催するなどして職員1人1人が利用者に安心していただける環境を提供する。		

〔事業所名〕グループホーム愛宕苑【ユニット名：第二】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に参加して伝達講習会を行うよう計画している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、入所者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には電話連絡時や面会時に要望や不満などの意見を聞くようにしている。また、意見箱を設置して、投函できるようにし、それらの意見を事業運営に反映させている。	家族アンケートをとり家族の意見の把握に努めている。3月の「介護保険の改正の説明会」には多くの家族が参加しており、今後に向けて家族会の開催も検討している	家族会の開催が実現し、家族からの意見や要望を運営に反映できることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を行い職員の意見や提案を聞いて反映している。	入浴の時間帯の見直し、買い物、個別の外出への提案など、職員の意見は職員会議で取り上げ、運営に反映させている。提案が反映されているので、職員もやりがいを持つことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績は人事考課を行い、昇給や賞与として反映している。また、定期的に職員個々との面談を実施し職員環境や悩み相談を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、勉強会を2回実施している。また新人職員に関しては法人全体の新人研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣事業所への挨拶まわりや地域で行われている研修などに参加するようにしている。		

〔事業所名〕グループホーム愛宕苑【ユニット名：第二】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査には管理者、介護支援専門員が必ず同行し、入所者の不安や要望に耳を傾けるように努めている。また、入所初期には情報収集を入念に行い入所前の生活環境に出来るだけ近づけるように職員間で検討しあっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用間もない入所者の家族からの要望や悩みをゆっくりと傾聴し事業所として出来ること出来ないことを明確に説明、話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査の情報とご家族の情報などを元にケアプランの原案を作成している。その中でまずサービスの優先順位を決めひとつずつ丁寧に利用者が満足できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活にめりはりをつけていくとともに炊事、洗濯、掃除や、散歩、買い物、水やりなど、入所者様が興味のある事を本人の出きる範囲で職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来苑されたときには必ず近況報告を行うようにしている。また行事がある場合、家族の時間が合えば入所者と一緒に過ごしていただけるように声かけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から使用している馴染みの家具や大切にしている物を、入所時に持ってきてもらうように呼びかけている。また外出の機会を増やし、その方が暮らした地域へのドライブなど取り入れている。その他に入所者より希望がある際は、家族の協力のもと、外出している。	海へのドライブ、墓参りなど、入居者が馴染みの場所に行けるよう支援している。また親しい人が気軽に訪問しやすい雰囲気配慮し、訪問の少ない家族も月に一度は訪問できるよう、衣替えの電話をするなど、馴染みの関係が途絶えないように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士の間に入り、コミュニケーションが取り合えるように関わっている。イベントやカラーセラピーなど入所者同士が交流できる環境作りを支援している。		

〔事業所名〕グループホーム愛宕苑【ユニット名：第二】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、入院をされた方については、見舞いや電話連絡を行っている。また、他施設に入所された方については、特に行っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中から入所者の発した言葉や希望などを聞き逃さず記録に残しケアプランに反映させるようにしている。	家族とも話し合い、入居者の言葉や様子などから得られた情報は介護経過記録に記入している。入居者の担当を決め、センター方式も活用して一人ひとりの意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して情報収集を行いその人の暮らしぶりを把握するようにしている。また定期的に担当者会議を行って経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用して24時間シートを作成し、出来ること出来ないことを把握するようにしている。日々の変化を申し送りで伝達し把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議、ケース会議を行い、現状に即したケアプランを作成している。	モニタリングは毎月行い、入居者・家族の意向を把握し、職員会議も月1回2ユニット合同で行ってケアプランに反映している。ケアプランは変化が無いときは半年に一回作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、会議や申し送り時に職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者、家族の状況に応じて、通院や外出など必要な支援は柔軟に対応している。		

〔事業所名〕グループホーム愛宕苑【ユニット名：第二】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会など地域にある資源との協力は積極的に行うよう体制を整えている。安全面では系列の病院を協力病院として24時間の医療体制を整えている。入所者の楽しみのため買い物や外食施設など利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者、家族が希望する医療機関に受診することが出来るように支援している。また各週で訪問診療による受診を支援している。	多くの入居者が、協力医の訪問診療を利用している。家族が同行して他のかかりつけ医にかかる時はホームでの状況報告をし、受診後の情報も家族と共有し、適切な医療に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している訪問看護ステーションより週1回健康チェックを受けている。入所者急変時にはすぐに連絡できるよう日頃から看護師と関わりを持ち体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを持参し入所者の情報提供をしている。定期的にお見舞いに行っており、病院、家族との情報交換、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項の説明時に看取りに関する方針と支援内容について説明している。また、看取り介護の勉強会を行い介護職員の方針や対応を共有するよう努める。	看取りの経験は無いが、職員は関連法人内の医師や看護師からの助言で体制作りに取り組んでいる。入居時、終末期の方針を家族にも説明し、グループホームで出来る事を伝えている。また関連法人の病院と連携体制がとられ、緊急時の連絡網も出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で急変時や事故発生時の訓練を行っている。また施設職員の緊急連絡体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行う訓練に地域住民や利用者にも参加してもらい、施設の実態を把握してもらうよう促している。また隣接する施設に3日分の非難食を備蓄している。	火災訓練を年2回行っている。津波訓練の時は、近くにある法人の特別養護老人ホームの3階へ避難訓練を行っている。また災害時の要介護者を想定した有田市の「福祉避難受け入れ事業」の施設に認定されている。	火災だけではなく地震、水害など災害によっても避難の形態は違うので訓練はあらゆる想定を考えたい。避難には地域の協力が欠かせないので、さらなる協力体制を期待する。

〔事業所名〕グループホーム愛宕苑【ユニット名：第二】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートスペースは入所者の希望にて居室ドア部分に目隠しを貼りプライバシーに配慮している。個人ファイルなどの書類は書棚になおすよう心がけ守秘義務を徹底している。個人情報については必要な情報提供や居室の名札の明示など書面にて同意を得ている。	苗字で呼ばれたい人、馴染みの呼び名で呼ばれたい人など、入居者の反応を見ながら声かけをし、本人の気持ちを大切にしている。風呂やトイレの介助は異性を拒む入居者には同性介助をしている。	制服は介護するものとされるものを際立たせる雰囲気になりがちである。被介護者の人格の尊重や誇りを損ねない支援とは何か、今一度振り返り検討することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションや日常生活の中から入所者の要望を出来るだけ受け入れるようにして職員の一方向的な支援や介助を行わないように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者に無理なく出来ることを手伝ってもらったり趣味を生かした生活を支援している。起床や入浴は希望の時間になるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者の意思決定で衣類を選んでもらい着てもらうように心がけている。希望者には第2・4月曜日には訪問理容サービスを受けることができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の入所者に合わせた時間帯に食事をしている。自分のペースで食事ができるよう十分な食事時間を取っている。日曜日、誕生日には入所者の希望する献立を立てている。定期的に外食に行ったりして楽しんでいる。	栄養士による献立で栄養管理をしている。入居者の好みに合わせ魚料理が多い。キッチンで職員が作り、セッティングや味見、後片付けを入居者が手伝っている。昼食は職員と一緒に食事をとることもある。朝食の時間は各入居者の生活のペースにあわせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立をベースにして作成している。栄養面への配慮をし、体重表の管理、食事、水分量を毎日記録し把握している。食事や水分の摂取が困難な方に対しては、管理栄養士に相談し、連携をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後に口腔ケアを呼びかけ実施している。就寝時には義歯の管理、洗浄を行っている。協力病院との相談、受診を行っている。		

〔事業所名〕グループホーム愛宕苑【ユニット名：第二】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録を行い、入所者個々に合わせたトイレ誘導を行い、清潔保持に努めている。	入居者一人ひとりのタイミングをみて声をかけをし、トイレでの排泄や自立にむけた支援を行っている。昼間はリハビリパンツから布パンツになり、パッドが外れた入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をつけるとともに1日の水分量の把握をしている。便秘の方には医師に相談し服薬コントロールをしている。運動を促したり、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴していただけるよう声かけしている。拒否される方、時間を希望される方等、個々に合わせ入浴をしていただいている。A DLに合わせ中間浴一般浴を設置している。	1階は浴槽が可動式の間接浴、2階に一般浴がある。1階の中間浴を希望する2階の入居者も多く、個々の希望に合わせて、夜間も7時くらいまでなら入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠していただけるよう日中活動時間を増やしていく声かけをしている。安眠につながるよう光や音が居室に入らないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行い服薬介助している。各職員が服薬効能を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴等の情報収集を行い個々に合った楽しみ方で生活してもらっている。また職員は個々の情報を共有し把握している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出するレクリエーションを企画している。家族との外出や外泊は自由に行うことができる。	ドライブ、買い物、外食等その時々で入居者の希望を聞き、少人数や個別の外出支援をしている。散歩に出ることの困難な入居者には受診帰りにドライブするなどの支援をしている。近所にある赤岩観音は日常的に戸外に出る散歩コースとなっている。	

〔事業所名〕グループホーム愛宕苑【ユニット名：第二】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者が管理できる程度で少しの所持金を持っていただき希望時には一緒に買い物に行き欲しい物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話対応は予め家族に電話しても良いか意向確認している。できる限り入所者本人が自由に電話できるよう配慮している。手紙も利用者本人が書き家族面会時に渡すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの環境整備を徹底し清潔にしている。季節感を実感できる飾り物や作品を展示している。	フロアの真ん中には大黒柱があり、建物全体に紀州材を使い落ち着き感がある。窓から近隣の山や庭の花々が見られ解放的で季節感がある。食事テーブルの隣には畳敷きの居間があり、テレビとソファが置かれていて入居者は食後にくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入所者同士、席を近づけ思い思いコミュニケーションをとれるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室入り口のガラス戸には目隠しをし個人のプライバシーを確保する。居室には使い慣れた家具や馴染みある物を持ってきていただけるよう呼びかけている。	ベッドを利用している入居者も、畳に布団を敷いている入居者もいる。壁には家族の写真や、入居者が描いた塗り絵など貼って自分の居室らしさを作っている。テレビやタンスなど使い慣れた持ち物が置いてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や歩行や車椅子スペースの確保、手すり、バリアフリーと自立した生活が送れるよう工夫した作りになっている。		